

第6回世界のウチナーンチュ大会連携イベント記念シンポジウム 「世界のウチナーンチュ ～しまくとぅば保存継承の現状と課題」の 開催について

10月に沖縄県で開催された第6回世界のウチナーンチュ(沖縄県系人)大会の連携イベントとして、10月29日、おきでんふれあいホールにおいて、「世界のウチナーンチュ ～しまくとぅば保存継承の現状と課題」を開催しました。本シンポジウムは、沖縄と海外ウチナーンチュ・コミュニティが、しまくとぅばの保存継承という共通の課題に向けてどのように連携できるか議論することを目的として、琉球大学、名桜大学、沖縄県立芸術大学、ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部、御冠船歌舞団(ハワイ州)との共催により開催したもので、シンポジウムには、海外参加者を含め約130名が参加しました。

シンポジウムは、ハワイ大学ヒロ校教員によるハワイの伝統的な詠唱「チャント」で幕開けしました。主催者挨拶では、大城琉球大学長がしまくとぅばで挨拶し、続いて山里名桜大学長は、英語、スペイン語、ポルトガル語、しまくとぅばを交えた挨拶で歓迎しました。

基調講演では、ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部から招聘したケイキ・カヴァエアエア氏、マーヘエラニ・コバシガワ氏、ケレナ・シルバ氏がハワイ語によりヒロ校ハワイ語学部によるハワイ語復興の取組を紹介し、同学部大原由美子氏が日本語に通訳しました。

パネル・ディスカッションでは、「海外ウチナーンチュ・コミュニティにおけるしまくとぅばの継承に向けた連携」と題して、我那覇宗孝氏(トルヒーヨ私立大学・名桜大学客員教授:ペルー)、ルシーラ・エツコ・ギボ氏(上智大学:ブラジル)、ノーマン・カネシロ氏(御冠船歌舞団:ハワイ)、比嘉朝儀氏(北米沖縄県人会:アメリカ)がそれぞれの国・地域におけるしまくとぅばの使用や教育の現状、保存継承のための取組等について報告を行いました。また、ハワイ大学マノア校沖縄研究センター長ジョイス・チネン氏もコメンテーターとして参加しました。続いてコーディネーターの石原昌英教授(琉球大学法文学部)の司会により、しまくとぅば保存継承へ向けた沖縄や海外ウチナーンチュ・コミュニティとの連携の可能性について議論しました。その後、会場とのディスカッションがあり、沖縄県内の参加学生や海外からの参加者が熱心に質問していました。

また、本シンポジウムでは、海外のウチナーンチュ・コミュニティでのアイデンティティの確立やしまくとぅばの継承を目的とした本学の取組である「沖縄語ースペイン語辞典」、「沖縄語ーポルトガル語辞典」の発刊に際し、製作にご尽力くださった我那覇宗孝氏、ルシーラ・エツコ・ギボ氏に対し、大城学長から感謝状が贈呈されました。



ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部教員によるチャント



挨拶する大城琉球大学長



山里名桜大学長



基調講演



パネル・ディスカッション



感謝状贈呈
(左から我那覇先生、ギボ先生、大城学長)



会場とのディスカッション



会場の様子